

Efficacy of a device to narrow the coronary sinus in refractory angina.

Verheye S, Jolicœur EM, Behan MW, Pettersson T, Sainsbury P, Hill J, Vrolix M, Agostoni P, Engstrom T, Labinaz M, de Silva R, Schwartz M, Meyten N, Uren NG, Doucet S, Tanguay JF, Lindsay S, Henry TD, White CJ, Edelman ER, Banai S.

N Engl J Med. 2015 Feb 5;372(6):519-27.

血行再建の適応とならない冠動脈疾患患者は、標準薬物治療を行っても難治性の狭心症を有することが多い。冠静脈洞径を縮小させる砂時計型のバルーン拡張型ステンレス製デバイスは、限局的に狭い部分を作り、冠静脈洞内圧を上昇させ虚血心筋に血液を供給する。本研究ではCCS分類III または IV 度の狭心症で血行再建の適応とならない患者 104 例を、このデバイスを植え込む群と偽処置を行う群に無作為に割り付けた。主要評価項目は、6 ヶ月の時点で CCS 狭心症分類が 2 度以上改善した患者の割合とした。結果は、治療群 35% (18/52) に対し、対照群 15% (8/52) であった (P=0.02)。今回の小規模臨床試験では、血行再建の適応とならない難治性狭心症患者において、冠静脈洞径縮小デバイスの植込みは症状改善に有効かもしれない。